

プラごみ削減 進む飲料業界

ペットボトル 再生素材に

伊藤園は一日、環境に配慮し石油の利用を減らすため、二〇二五年までに主力商品「おーいお茶」ブランドで使われるペットボトルをリサイクルや生物由来の素材に切り替えると発表した。日本コカ・コーラも五月末から「コカ・コーラ」などで同様の取り組みを実施。飲料業界でプラスチックごみの削減に向けた試みが進んでいる。

伊藤園は一九年から「おーいお茶」ブランドの一部でリサイクル素材を使い始めた。二五年までに石油が原料のペットボトルを廃止する。他のブランドでも、三〇年までに全て再生素材にする。二酸化炭素(CO₂)の排出量は六割減らせるといふ。

日本コカ・コーラは全国で販売する「コカ・コーラ」や「ジョージア シヤパン クラフトマン」のペットボトルをリサイクル素材に変更。プラスチック約三万トンの削減を見込み、三〇年までに他の商品でも導入する方針だ。キリンビバレッジは全国のコンビニで三月から再生素材の「生茶」シリーズの販売を始めた。

国連環境計画によると、ペットボトルを含む使い捨てプラスチック製品の一人当たりの廃棄量は、日本が米国に次ぎ世界で二番目に多い。

伊藤園は「環境に配慮した容器の製品を増やし、持続可能な社会・環境の実現に貢献していく」とコメントしている。